

1サムエル 30 章 6 節 「主にあって奮い立つ」

アウトライン

1A 落胆する要因

1B 成果のない努力

2B 不確実な将来

3B 継続的圧迫

4B 恐れ

2A 自分への励まし

1B 主への伺い

2B 主への賛美

3B 集会

4B 御言葉の約束

3A 他者の励まし

本文

サムエル記第一 30 章 6 節を開いてください。今日でサムエル記第一の学びが終わります。午後礼拝で、28 章から 31 章までを学びます。今朝は 30 章 6 節に注目してください。

ダビデは非常に悩んだ。民がみな、自分たちの息子、娘たちのことで心を悩まし、ダビデを石で打ち殺そうと言いだしたからである。しかし、ダビデは彼の神、主によって奮い立った。

私たちは、ダビデがサウルの手から逃れるためにペリシテ人の王のために働く道を選んだところを読みました。彼にはツイケラグという町が宛がわれました。そして、彼はゲルシュ人、ゲゼル人、アマレク人などから略奪し、虐殺をし、ペリシテ人の王アキシユには「ユダの町や、ケニ人の町を襲いました。」と報告しました。さらに、ペリシテ人がイスラエルと戦う時が来ました。ダビデは何と、迷うことなく喜んでアキシユにお供しようとしたのです。

けれども、ペリシテ人の他の領主たちが、かつてはイスラエルの勇士であったダビデといっしょに行くことはできないと強く反対しました。アキシユは仕方がなく、自分の町に戻りなさいと言いつけました。ダビデはがっかりしてツイケラグに戻りましたが、それどころではないことが起こったのです。なんとツイケラグの町を、アマレク人が襲ってきて、家畜だけでなく妻や子供すべてを奪い取って行ってしまったのです。そこで今、読みましたように、民が心を悩まし、ダビデを石で打ち殺そうとまで考えたのです。けれどもダビデは、主によって奮い立ちました。ここから、私たちの知っているダビデに戻ります。ダビデは神に立ち返り、その恵みによって全ての略奪物と妻たちを取り戻すこと

ができたのです。

先週私たちは、「落胆した時」という説教題で、ダビデが信仰的に後ずさりしたところを学びました。今週はその反対です。信仰が後ずさりしている中で、いかにして主にあって奮い立つことができたのかをじっくりと見ていきたいと思います。

1A 落胆する要因

1B 成果のない努力

再び、なぜ私たちが落胆してしまうのかを考えてみましょう。大きな原因の一つは、「主にあって正しいことを行なっているはずなのに、その成果を見ることができない。」ということであります。ダビデはサウルが自分を殺そうとすることに、彼自身は彼を殺す機会があったのに敢えて殺しませんでした。このように善を行なっているのに、相手は一向に悪で報いようとします。そして、その正しいことが悪いことをしているように思われる時は、大きな落ち込みを感じます。イザヤ書に、「**ああ。悪を善、善を悪と言っている者たち。(5:20)**」とあります。報いを感じることができない時に、私たちは落ち込みます。

そこで主の励ましが、次のようにあるのです。「**善を行なうのに飽いてはいけません。失望せず**にいれば、時期が来て、刈り取ることになります。(ガラテヤ 6:9)」必ず、主がよしとされた時期に報いを受けることができます。「**ですから、私の愛する兄弟たちよ。堅く立って、動かされることなく、いつも主のわざに励みなさい。あなたがたは自分たちの労苦が、主にあってむだでないことを知っているのですから。(1コリント 15:58)**」労苦は決して無駄にはなりません。さらに、こういう御言葉もあります。「**神は正しい方であって、あなたがたの行ないを忘れず、あなたがたがこれまで聖徒たちに仕え、また今も仕えて神の御名のために示したあの愛をお忘れにならないのです。(ヘブル 6:10)**」

2B 不確実な将来

次に落胆してしまうことは、将来が定まっていない、不確実、不確実な将来を見てそうなってしまいます。どこに向かっているのか分からない。解決の道しるべが一切見えてこない時のことです。津波や原発事故の被災者で、避難所生活において自殺した人が少なかったのに、落ち着いて瓦礫も片付き、仮設住宅に暮らしている人の中に自殺者や鬱になる人が多いのはその為です。避難生活においては、日々の生活を生きるのに精いっぱいでしたが、生活が落ち着き、無くなった自分の家屋を建てるお金がない、またお金を貯めるための職がないことで、大きな不安の中にいます。それで落ち込みが大きいのです。

そこで必要なのは、神の将来の希望の計画です。「**わたしはあなたがたのために立てている計画をよく知っているからだ。…主の御告げ。…それはわざわざいではなくて、平安を与える計画であり、あなたがたに将来と希望を与えるためのものだ。(エレミヤ 29:11)**」そして、そのような不安な

中にいても、神を愛する者には主がすべてのことを働かせて益としてくださる、という約束もありますね。

3B 継続的圧迫

そして私たちは前回、心理的な圧迫を継続的に受けていると心が弱まって、落ち込みが始まります。それが、神は真実を示してくださり、その状況から救われていても、主が勝利を与えてくださっている時でもそうです。その過程で戦ってきたストレスで心がすり減っているのです。自分の重荷があまりにも大きすぎる。自分を取り組める能力を超えている、と感じる時です。

4B 恐れ

そしてこれも前回学びましたが、恐れが入ってくると落胆します。自分が安心できる領域が脅かされます。ダビデは恐れとの闘いをこう言い表しています。「わがたましいよ。なぜ、おまえは絶望しているのか。御前で思い乱れているのか。神を待ち望め。私はなおも神をほめたたえる。御顔の救いを。(詩篇 42:5)」

2A 自分への励まし

ダビデは打ちひしがれ、そして部下たちが打ちひしがれました。4 節を読むと、「ダビデも、彼といっしょにいた者たちも、声をあげて泣き、ついには泣く力もなくなった。」とあります。そして、ペリシテ人の下で生きていたから、こんなことになってしまったということで、ダビデを石で打ち殺そうとまで考えるところまで来ました。

そのような絶望的状況の中で、ダビデが行なったのが「主によって奮い立った」であります。「奮い立った」という言葉は、「強めた」「励ました」と言い換えることができます。聖書には、強められるという動詞がたくさん使われています。「終わりに言います。主にあつて、その大能の力によって強められなさい。(エペソ 6:10)」英語ですと、「主にあつて、自分を強めなさい」というように書いてあって、主にあつて自分自身を強めることになります。

私たちは、落ち込んでいる時、その落ち込みに対して意志を用いないでいることは良くないです。宙ぶらりんの状態、自動車というならギアをニュートラルのままにしている状態が危ないです。信仰というのは、積極的に意志を用いていく作業です。励ますのは自分自身です。自分が積極的に自分自身を励まします。前回のメッセージで、ペテロ第二 1 章にある箇所を読みましたが、「あなたがたは、あらゆる努力をして」という言葉がありました(5 節)。そして、「ますます熱心に、あなたがたの召されたことと選ばれたこととを確かなものとしなさい。(10 節)」とあります。

そして大事なものは、それは「主によって」行うことです。自分自身を一生懸命励まそう、慰めようと努力しても、その源が自分自身であれば、いつまでも堂々巡りをします。自分自身には希望がありません、確かに落ち込みしか残っておらず、絶望のみです。けれども、力の源である主ご自身に

立ち返るのです。先に引用したエペソ書の言葉も、「主にあつて、その大能の力によって強められなさい」とあります。

1B 主への伺い

そのために、ダビデは何をしたでしょうか？8節に、「**ダビデは主に伺つて言った。**」とあります。ダビデはようやく、主に語り始めました。それまでは自分の心に語っていたのです。そして、ペリシテ人と共にイスラエルと戦おうとするところまで墮落し、そしてアマレク人に財産や妻を持つていられる所まで至りました。主は、その人がご自身を求めるまでそのままにされます。そうした、ただ主にのみ拠り頼むようにされるのです。

その様子を神は、「悟りのない馬や驃馬」と形容しておられます。「わたしは、あなたがたに悟りを与え、行くべき道を教えよう。わたしはあなたがたに目を留めて、助言を与えよう。あなたがたは、悟りのない馬や驃馬のようであつてはならない。それらは、くつわや手綱の馬具で押えなければ、あなたに近づかない。(詩篇 32:8-9)」私たちは強いられて、主に拠り頼む必要はありません。最後になって主を求める必要はありません。主を初めに求めれば、数多くの不必要な心労はなかったかもしれせん。

主は惜しみなく知恵を与えてくださいます。求めさえすれば、豊かに施してくださいます。ダビデが主に伺うと、主は速やかに応えてくださいました。そして、すべての道筋をまっすぐにしてくださいました。箴言 1章 23節にこうあります。「**わたしの叱責に心を留めるなら、今すぐ、あなたがたにわたしの霊を注ぎ、あなたがたにわたしのことばを知らせよう。**」ここの主語「わたし」は、文脈の中では知恵です。神の知恵に心を留めるなら、すぐに知恵の御霊が注がれて、主の言葉が与えられるといいます。

2B 主への賛美

そして、主にあつて奮い立つ、力づけるのは、主に賛美を歌うことです。使徒パウロとシラスの宣教旅行のことを思い出します。彼らがピリピにいる時に、嘘の告発を受けて、むちを打たれて牢獄に入りました。その真夜中に、彼らは賛美を歌ったのです。「**真夜中ごろ、パウロとシラスが神に祈りつつ賛美の歌を歌っていると、ほかの囚人たちも聞き入っていた。(使徒 16:25)**」辛い時に、困難な時に賛美を歌うことは努力が必要です。ですからパウロとシラスも、「**神に祈りつつ賛美の歌を歌っていると**」とあります。祈りがあり、その後で賛美しました。ヤコブも手紙でこう言いました。「**あなたがたのうちに苦しんでいる人がいますか。その人は祈りなさい。喜んでいてる人がいますか。その人は賛美しなさい。(ヤコブ 5:13)**」

歌をうたうことが、そのまま賛美ではありません。神が受けるに値する称賛、これが賛美です。けれども歌にすることによって、感情が発散されます。主に対する感情が、歌による賛美によって発散されるのです。主への喜びの感情、愛の感情、感謝の感情など、歌によって言い表すことがで

きます。

そして歌っているうちに、自分の問題から焦点が外れていきます。そして主に焦点が合っていきます。賛美の効用について有名な箇所は、詩篇 73 篇です。礼拝賛美を導くアサフは、「**自分の足はたわみそうで、私の歩みはすべるばかりだ。(2 節)**」と言いました。信仰的にもうだめだ、ということ。けれども、「**私は、神の聖所にはいり、ついに、彼らの最期を悟った。(13 節)**」と言いました。賛美によって神の聖所に入って、神の視点から物事を見ることができるようになったのです。

3B 集会

そして、自分自身を主によって強める三つ目の方法は、互いに集まることです。「**また、互いに勧め合って、愛と善行を促すように注意し合おうではありませんか。ある人々のように、いっしょに集まることをやめたりしないで、かえって励まし合い、かの日が近づいているのを見て、ますますそうしようではありませんか。(ヘブル 10:24-25)**」集まることによって、何を行なうのでしょうか？励まし合いをします。それは、勧め、愛と善行を促すように勧めます。

私たちは教会に来て、摩擦が起こります。対人関係は、世の中だけでなく教会でも同じです。いや、神を礼拝すると共に、「互い」という言葉に代表されるように人間のつながりが、教会には求められています。それで人と人とのぶつかり合いが起こることで、かえって疲れてしまう、辛くなってしまうことがあります。けれども、やはりいっしょに集まることをやめることはしてはいけなく、と神は命令しておられるのです。ここにこそ、神の励ましの源泉があるからです。

4B 御言葉の約束

そして自分を主によって励ます方法は、神に思いを留めることです。「**こういうわけで、もしあなたがたが、キリストとともによみがえらされたのなら、上にあるものを求めなさい。そこにはキリストが、神の右に座を占めておられます。あなたがたは、地上のものを思わず、天にあるものを思いなさい。あなたがたはすでに死んでおり、あなたがたのいのちは、キリストとともに、神のうちに隠されてあるからです。(コロサイ 3:1-3)**」この「思いなさい」という言葉は、思いを固定するような意味合いがあります。地上のものを思うのではなく、天にあるものに思いを固定するのです。

ここで大切なのは、「**あなたはすでに死んでおり**」という言葉です。私たち自身の内側を見てしまうと、落ち込んでしまいます。なぜなら、既に死んでいるからです！そこには希望がありません。キリストにある自分、そこに命があります。だから、いつもキリストを見つめるのです。そして地上のものに思いを固定させないことが必要です。

3A 他者の励まし

こうして自分自身を主によって励まし、強めることができたダビデは、すぐにアマレク人との戦い

に出ていきました。六百人の者を連れていき、二百人は途中で荷物を見て、留まっていたが、四百人が無事にアマレク人のいるところに到達し、そしてアマレク人から全て奪われたものを取り返すことができたのです！妻たちも戻ってきました。これは何という奇蹟でしょうか？そして恵みの業です。ダビデはこのようにして、自分自身が主によって奮い立ったために、他の人々をも奮い立たせることができました。

このように自分自身を主によって励ますことによって、兄弟たちを励ますことができます。イエス様が、ペテロに言われた言葉を思い出します。「シモン、シモン。見なさい。サタンが、あなたがたを麦のようにふるいにかけることを願って聞き届けられました。しかし、わたしは、あなたの信仰がなくならないように、あなたのために祈りました。だからあなたは、立ち直ったら、兄弟たちを力づけてやりなさい。(ルカ 22:31-32)」ペテロは、とてつもない試練をこれから通ります。捕えられて、ユダヤ人の裁判を受けるイエスを見なければいけません。そして主を三度、知らないと言います。そしてペテロは大声で泣きます。こんなに辛いことはありません。けれども、イエス様が祈ってくださったおかげで、彼は信仰を失うことはありませんでした。そして、主の復活後に立ち直ることができます。そして、その彼が他の兄弟を力づけることができるのです。

もしかしたら、今、落胆している方がおられるかもしれません。けれども主は、ペテロに対するのと同じように他の兄弟たちを力づけるのに用いたいと願っておられます。「ですから、あなたがたは、今しているとおりに、互いに励まし合い、互いに徳を高め合いなさい。(1テサロニケ 5:11)」今、落ち込んでいる私なのに、自分自身でさえ元気になっていないのに、どうして他者を励ますよう主が呼ばれているのだろうか？と疑問に持つかもしれません。けれども、そうなのです。その励ましの力を主は持っておられます。主はペリシテ人と共に住んでいたダビデを、このように立ち返らせ、完全な回復と恵みを授けられました。同じように主は、恵みを施してくださいませ。